

支え、つなぎ、広げよう！ 地域づくりのわ

小城市では、平成28年度から「介護予防と地域づくり勉強会」で、高齢になっても安心して過ごせる地域づくりについて、市民の皆さんと話し合いを続けています。その話し合いでの意見から支援が必要な人を地域で支えるため、住民主体のボランティア活動(有償)が始まりました。今回は、この活動についてご紹介します。



令和元年度 市民公開講座

現在、小城市の65歳以上の割合は28・4%（昨年比+0・8%）と高齢化が進んでいます。地区によっては30%を超えているところもある状況です。

そこで、小城市ではいつまでも住み慣れた地域で、安心して暮らし続けることができるよう、平成28年度から高齢者の暮らしを支える「地域の支えあい」について話し合いを続けています。

平成29年1月の「第1回市民公開講座」を皮切りに、小城市の高齢化の現状や課題を共有するための勉強会を開催し、地域づくりを地域住民で考える場である「第2層協議体」が各町に



芦刈町 第2層協議体

発足しました。

各町で困りごとアンケート調査を実施して地域の課題を整理し、「外出「買い物」「こみ出し」の3つのテーマで支援を実現しよう」と話し合いを重ねました。

第2層協議体で出た住民の意見から、昨年5月に小城市社会福祉協議会内に「小城市支えあいセンター」が設立されました。

現在、日用品の買い物代行する「買い物支援」と、高齢者には重く感じる「こみ出し支援」の活動がスタートし、利用者とボランティア双方から喜びの声が挙がっています。

協議体 メンバーの声

こうあてると
幸尾輝子さん

(73歳・三日月町)

小城市の自然の美しさに惹かれて20年前に引っ越してきました。その時は電車もバスもあるので車を処分しましたが、住んですぐに車の必要性を感じました。

第1回市民公開講座で小城市の高齢化の現状を知り、免許を返納した後の暮らしに不安があり勉強会に参加しました。

小城市には知り合いもいなかったのですが、協議体で人とのつながりを深めることができ、顔見知りが増えて良かったです。

三日月町の協議体は年齢が近い方が多いので、悩みも共感でき、意見も活発に出ます。

地域の高齢者や免許を返納した方がどんなことに不便を感じているのかを真剣に話し合い「課題解決のために自分たちができることは何か」



三日月町 第2層協議体

という視点を大事に、検討や改善を重ねています。

その結果、「住民主体で行うボランティア活動」が誕生できたのはとても良いことだと思えます。まだご存じない市民の方も多くいらっしゃると思いますので、ぜひ利用を勧めていただきたいですね。

将来の自分のためにも、私が今できることはお手伝いさせていただけようという気持ちでボランティア活動もしています。

いくつになっても地元で元気に過ごせるように、皆さんと交流して長生きしていきたいです。

ボランティア活動の流れ

ごみ出し支援



!! 支えあい券 !!

支えあい券
小城市社会福祉協議会
(小城)0952-73-2700
(牛津)0952-51-5324



持って行くごみを確認します。



「支えあい券」をもらいます。



ボランティア活動を行います。

利用者

たぐりしずこ
田栗 静子さん (77歳・牛津町)



以前から知り合いだった牧口さんに「小城市支えあいセンター」のことを教えてもらい、サービスが開始された当初から登録してサービスを利用しています。

現在は2週間に1度、ごみ出し支援をお願いします。集積所が少し離れたところにあり、重いごみを持っていくのは大変なのでとても助かっています。ごみ出しに来られた際には、他に困っていることはないか気遣ってくださいます。

先日はウォーターサーバーの水の交換が重たくてできずにいたところ、気付いて快く交換してもらいました。本当にありがたく感じています。

牧口さんがとても親切な方なので安心感がありますし、少しの間ですがお話しするのも楽しみです。

ボランティア

まきぐち もりよし
牧口 守喜さん (79歳・牛津町)



協議体に参加し、これまで勉強会や研修などで地域づくりについて、いろいろと学ばせていただきました。

高齢化時代を迎え、老老介護という言葉もあるように、老人が老人を支える社会状況になっていると

思います。私も老人の1人ですが、できる分はと思い「ごみ出し支援」のボランティアに登録しています。

田栗さんご夫妻とは昔からの知り合いで、ご不便されているのではと思い、このサービスをご紹介しました。訪問して元気な田栗さんの顔を見るとほっとしますし、私もボランティア活動をすることが健康維持に繋がっているの、人を助けているのではなく、私自身も助けられていると感じています。

助けてもらいたい人が遠慮せずに「手伝ってほしい」と声をあげられるような、支えあいの取り組みがもっと広がってほしいと思います。

買い物支援



購入する品物を聞いて、お金を預かります。



ボランティア活動を行います。



購入した品物とおつりを渡します。



「支えあい券」をもらいます。



「小城市 支えあいセンター」のご案内



利用について

一人暮らし高齢者、高齢者のみ世帯の人
(希望者へ訪問調査を実施します)

利用対象者

※利用登録後に「支えあい券」を購入して
いただきます。

利用できる 支えあい 内容

資格を必要としない短時間で終了する活動

- ・買い物を代わりにしてほしい
- ・ごみ出しを代わりにしてほしい など

ご注意

支えあい活動は有償になります。
(20分につき100円)

- ・支えあい活動ではできない内容の場合は、お断りさせていただくことがあります。
- ・ボランティアの活動時間は9時～16時です。(ただしごみ出しなど、時間が決まっている活動の場合はその限りではありません)

協カボランティア の募集

住み慣れた小城市で、支えあいながら末永く安心して暮らしていけるように、あなたが
できるボランティア活動でお手伝いして
みませんか？

活動内容

小城市に住む高齢者などの
生活上の困りごとのお手伝い



小城市
支えあいセンター
井上さん

申し込み・問い合わせ 小城市支えあいセンター (小城市社会福祉協議会) ☎73・2700 (担当：井上)

これからの小城市を考える“地域づくり”に参加してみませんか？

～協議体と支えあいセンターのボランティア活動～

小城市では、住民相互で支えあう取り組みが広がっています。
自分が住んでいる地域を良くしたい、地域のために今できること
をしたいという住民の思いで集まり、活動をしています。

この活動を一緒に考え、支えあいをつなげるのが生活支援コー
ディネーター(地域支えあい推進員)です。これからも住民の方々と
話し合いながら、よりよい地域を作るため、新たな取り組みを考え
ていきます。

新型コロナウイルス感染症で大変な時期ですが、だからこそ地域
でつながる関係は大切です。「お互いさま」の気持ちで始まる支えあ
いの活動から、人と人との温かい絆が育まれています。



生活支援コーディネーター

問い合わせ 高齢障がい支援課 (西館1階) ☎37・6108 (担当：野中・深町)